

四神地名録

夏商

和書門			
二七九〇一號	八八函	二架	四冊

18

庫文閣内		和書
二七九〇一號	八八函	二架

内閣文庫		
番號	和	27901
冊數	4 (2)	
函號	174	18



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



依

さくまのちり

于時寛政六のつと 長五月

黄檗山人言松軒辰謹誌

北原郡

一郡全記

玉郡

一郡内三分地を集

豊嶋郡

一郡内四分地を奉

足立郡

一郡内僅五分十一ノ地を記

葛飾郡

一郡内四分地を寄

北原郡之筆記 上

日本惣国風土記或藏國在北原郡

此書ハ古名旧地ニ存スル
多クニ校書ス故全カラズ

入浦二園三河二川一宮祠七寺五沃三

雨辰岡日井戸之園宇佐野藤佐園

御田御或ハ築夢赤坂石赤坂川

禪田八幡小六天神淨園寺

櫻田御櫻田神社北原神社

北原川滿田御滿田寺

和名類聚鈔地名

北浦田 田本 滿田 北原 覺見志

御田 本田 橋田

右ノ二書ハ伝スヘキ古書ト云凡年ツリニ事故
ニ其地名ヲウニナフ所多シ



大森村

大森村ハ一ノ蒲田御ナリ世村ノ巖寺
トシノ門院宗比寺有御傳ノ巖寺ノ院乃御宇
文永年中法皇上人トシノ傳比宗基トシノ
初ハ淨土宗の寺院ナリトシノ蓮如上人ト
伝シテ政宗トシノそれより一院宗トナリ
天正の以迄ハ伽藍地ナリトシノ安房の海城義言
トシノそのため小鏡七トシノ持傳ノ付ある
漸大師の九字の名号蓮如上人の古字の名号アリ
其傳詳々トシノ其右ハ住持の御傳ノ海城義言ハ

里見義高なる〜じ首阿と水軍を司る士と
海賊と稱す今倍より海賊とある〜兵火
の難ふあひ〜寺なる〜云傳ふの〜に〜
伝〜〜〜世寺冠山の麓の柳知山海蔵
と云ふ今も海小道〜世寺じ〜より〜
新習さ〜やい〜海なる〜んとたほ〜
地なりみ永年中より今も此五百有餘年より是
世寺ふ七月の佛祭りよ村の若きもの右儀い
集り〜浴日獅子舞〜追若と似や〜
〜や〜を古〜より古例〜

同村

世に明神の小社有別高を大表寺と稱す古き
寺と〜の〜中緒か〜地志亦大表村を
大表寺と〜いお〜と破有〜
世村の谷産海苔をよ京と似近年麦や糸細〜
^五世小海苔の浮草^とおもふ人多〜浮草^とを
枝木山〜^と夜竹〜とも海の浅瀬よ立木六を木
より生〜〜^と幾度も取ら〜^との〜をそ
取の地の隈〜〜生せるものあり〜生せる
所〜な〜大表村よむり〜あり〜

七拾年以來より生く一石川の海邊に生くる
海苔より一石川一石川と具砂ありともあり
りしむり一石川又石井とも一井の字ありとも
井一石川とも一石川と云人日井場と稱せしむ
ぬし有らんか上古の地名小日井戸の号といふ有
又海苔といふ一貫とせしむり一石川小日井戸
石川とも一石川とも一石川とも一石川とも
木と云生く海邊あり一石川の遠くとも同くとも
地の理ありともあり

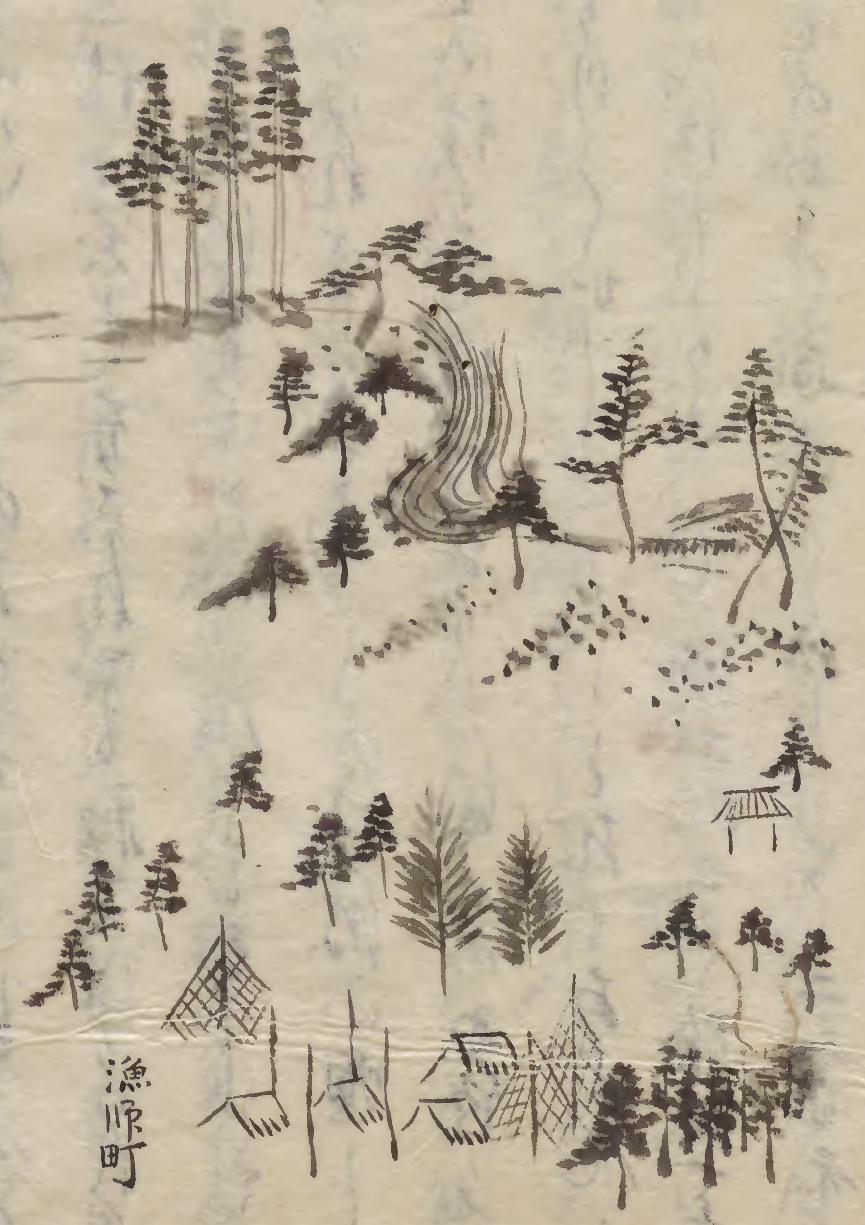
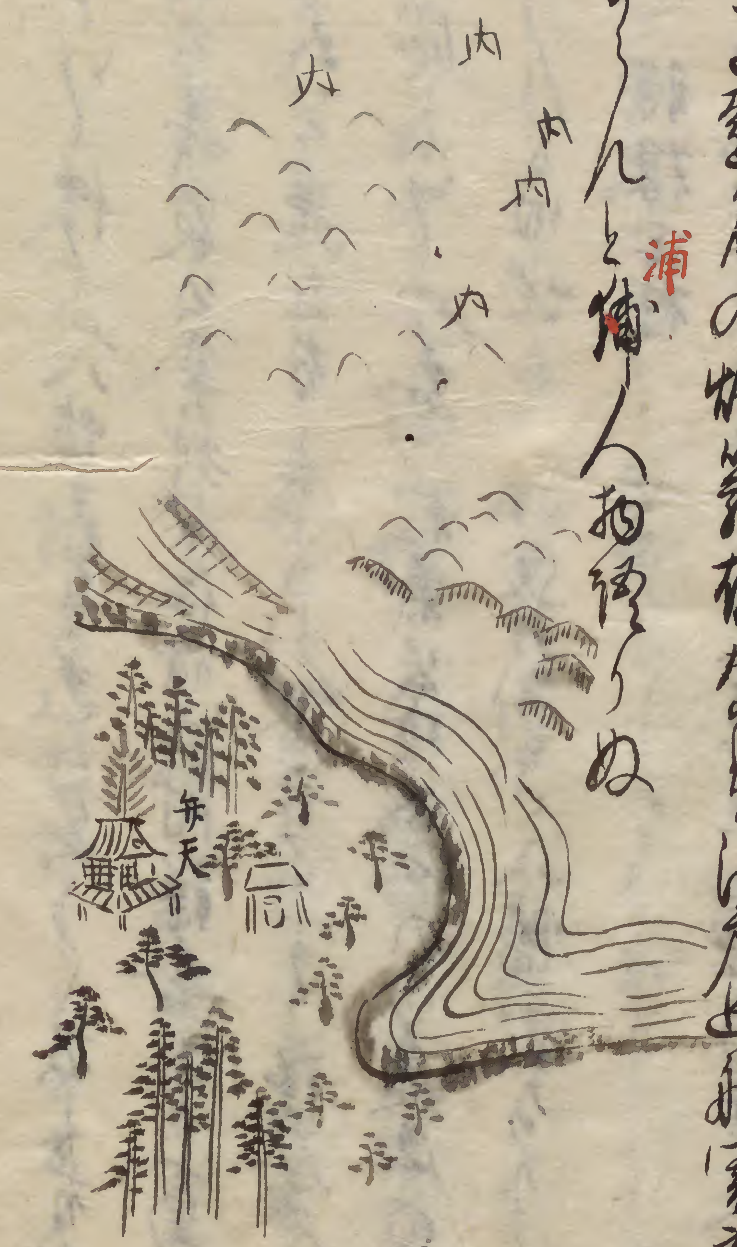
蒲田村

大森村の南に有古名ありといふ一石川中流あり

八幡塚村

古人曰地といふ八幡塚の社有別当寺と御帳山
達長寺宝珠院と号し之傳ふに教皇公石橋山の
合戦小幡軍一石川上流ありといふ一石川大軍
を率一石川上流ありといふ一石川大軍
着ふと下一石川一石川一石川一石川一石川
御帳山と号せしむり一石川の至信御帳山
彰彰公軍運の後源倉石橋山八幡塚と云勅進

けしり蟹人多出〜細引釣せり風流
 いらん〜なる〜世年天の社ハ七拾年以氣
 幼情〜〜沖釣舟の目下と寄るよ〜
 此地よをうんの焼籠有方とに江戸也松宮初め
 助る〜んと浦人相續りぬ



漁原町

海人の云海上の里敷を付るぬ一福と三人と
して付れぬ凡遠なましとされぬもある
ゆや世ふいらりぬの及有る海上の
里敷を付る意も有るれぬをばりぬぬ
やうなる凡波を^目い^目んともある
船をつり^目れ^目目と^目目^目の風波小順
福敷を^目付^目て便利ありと浦人のむけりぬ
及ふり^目が^目こ^目と^目あ^目ん^目
か^目の^目信^目が^目一^目漢^目土^目の^目云^目く^目恰^目能^目て^目事^目
と知るものぬ^目日^目降^目ん^目と^目と^目と^目三日^目茶^目り

船よ深く入る横ふなりて事日知るんを
と^目と^目日^目ぬ^目砂^目よ^目小^目が^目一^目出^目り^目ら^目が^目く^目の^目事^目 ^目 ^目
そのぬ^目ぬ^目を^目知^目る^目ぬ^目ぬ^目あり^目と^目浦^目人^目の^目事^目
たの^目その^目福^目敷^目の^目事^目ぬ^目ぬ^目ぬ^目ぬ^目
る^目き^目い^目ぬ^目ぬ^目と^目事^目ぬ^目ぬ^目

正月の末より世海西へ鯨の魚や鯨の魚や
敷木の太魚集りて漢船の細引魚の集る所
乞り来りて細述すぬ破るぬ小漢人ちい
忍れぬ船を傳述する事一に世良新の船儀
とありて海神祭ありと事一と名にぬ

いづき孫軍人

三細村

大畑山宝幢院と号せし。新義の志云ふあり。中書
拾遺名冠山行親上人保元年中の建立に似く。中堂の
惠心僧祖の作佛云々。保元年中とあるは。馬次
義親杯の時代あり。年久しきことあり。れは。云傳
の。めりく。何の事。も。あり。中書。ハ。山。城。院。珊。寺。の
よ。り。中。書。ハ。古。義。の。志。云。ふ。よ。り。中。書。ハ。新。義。此
志。云。ふ。と。ハ。故。有。る。よ。り。中。書。ハ。新。義。の。志。云。ふ。よ。り。中。書。ハ。

古川村

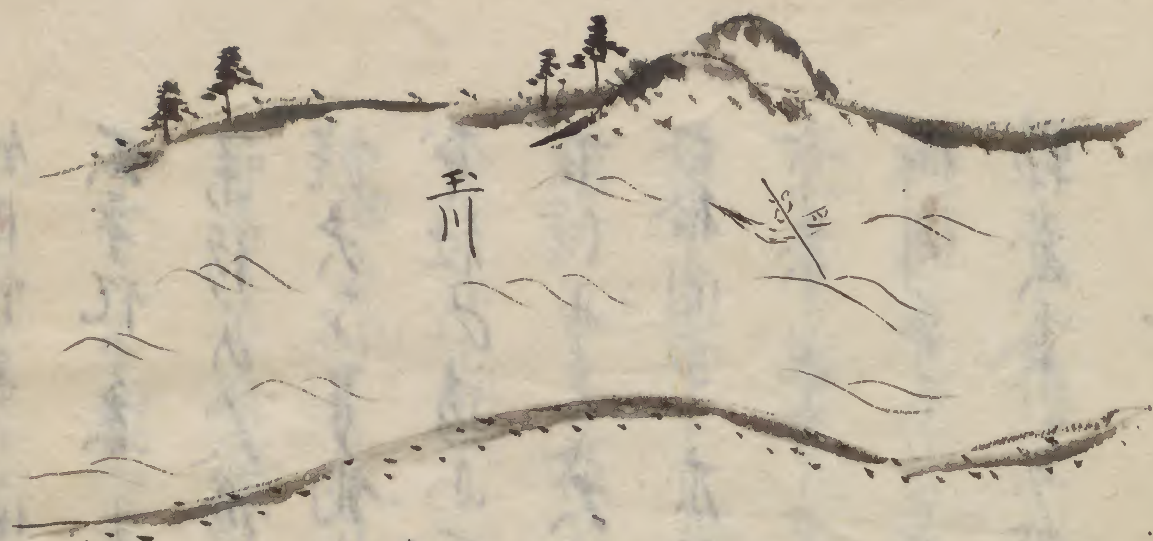
醫王山世尊院安養寺ハ。中書古川の業師。建誓思
の佛あり。お傳。ハ。和同二年。冠山行基。其。東。光。信
と。い。ふ。一。時。の。建。立。と。し。新。義。の。志。云。ふ。宗
除地一町。其。反。修。有。堂。の。前。ハ。浪。者。の。志。本。或。中
有。梅。小。丸。石。記。小。在。京。郊。後。田。江。福。田。子。に。清。宗。法。師
業師。仏。と。安。立。せ。り。と。有。若。中。書。の。こ。と。よ。り。中。書。ハ。
百年。経。了。時。に。地。名。も。失。り。し。の。め。り。く。後。田。と。
稱。せ。る。前。更。小。丸。一。冊。寺。の。業。師。仏。む。り。一。
よ。り。も。名。あ。る。也。来。る。れ。ハ。清。宗。法。師。安。立。有。り。
業師。あり。ん。と。風。云。記。ハ。後。田。の。名。よ。り。梅。を。貫

十

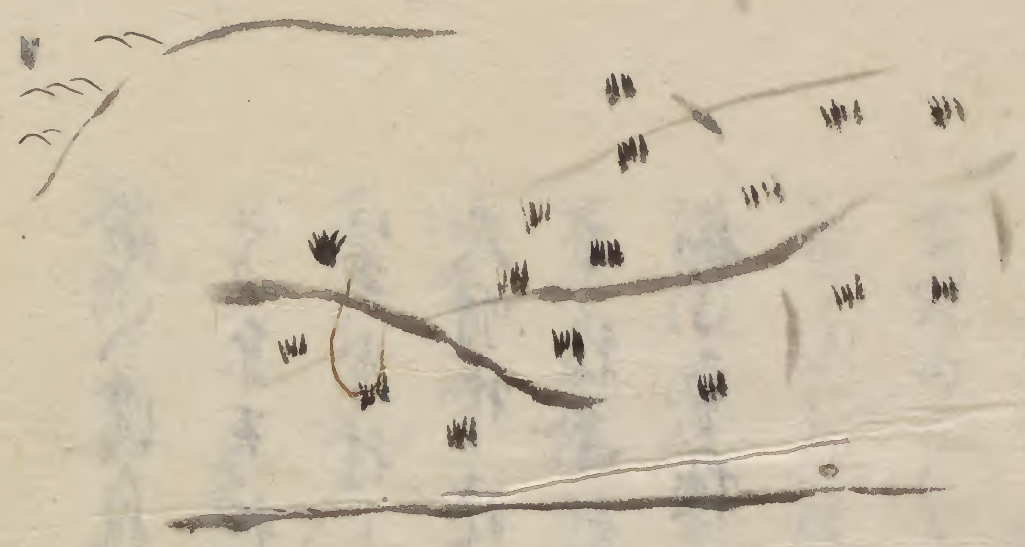
とせし事を記しし名ハ今建も古川村梅樹
ふりくまの自然の及理山く梅樹のお趣
去地めく巨くも池をくく梅樹乃
くくくく能くや彼是引合若くくく上世此
漢田のゆるりく梅の木名めりくくく
有く梅のふ前ハ江戸へ賣よ出くく
世前めくく直後も能くくく七文を
賣くく去人きいぬ

矢口村

世前いづめく鎌倉より別館への古名を
海へ流れく河口ありといひ傳ふ亦日本武
る東夷征伐有く時夫合の四地めく昔時
ハ矢口村と称せく由去人相傳り傳りぬ新田
大明神境内を及或拾武歩除地之別高明王院
去ハ後寺新義の去ハ宗なり新田義貞ハ世よ
知る勇極の傳なり



十二



竹内ハの来り間謀よもり〜新よ漏死有る事
大平記の事〜今も神靈あり〜め〜
系傳の人徳をそとくの事を引く〜申忌の
終末を多能〜〜諸願を祈るなり故有〜
中社の清小古墳有是義奥の死骸を葬りしる
古墳あり〜大竹難本惣茂す墳の囲ひ凡方
古拾間中本柵を固めり〜竹小柵の内
井木とあり〜あり〜五人有る忽四宗あり有る
柵倒す〜竹本昔時より珍重すること由り
敷設事あり竹ハ一年限りよ柵を年〜ふせり

〜小傍小碑石有奥列守山候の建玉い〜
碑石あり〜文ハ殿元之喬書ハ馬石の管記あり
文章略す七人のい〜昔時ハ社前よ餘掛の
枝と稱〜〜む〜大樹有古き餘の茶編
枝のよき枝小あり〜中幸久安を柵故柵倒て
今なき〜〜候の後の方〜〜の川
筋あり〜今もそ筋ハ窪ら〜田端之川原よ
ら〜〜世傳の有〜〜〜後の方正西な
き〜〜社を建てる地原なきゆ〜小是娘あり〜墳
の〜〜今ハの社を建てる〜〜と〜

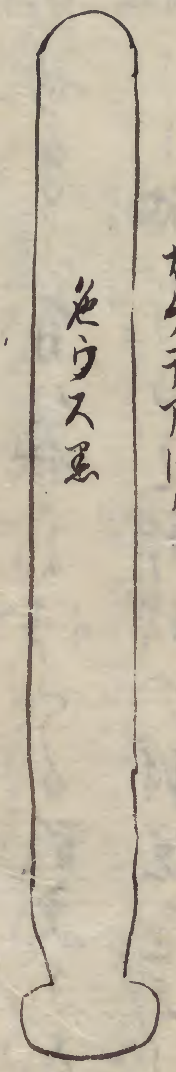
事いふゆゑも教百年も始りし事のとたゞい
ふことあり

光春ニミレハ見シカハ見サリニキ一テイミツル

白川の軍

國字とすの
公領をよしく
と稱しし
雷弁とある
りしき佛説し
事長く
ぬ

雷弁之圖

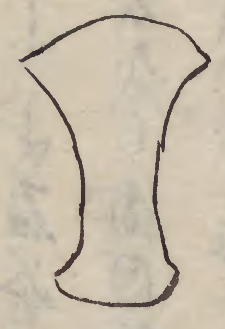


カケテアリ
是ウス忌
長サ三寸二四寸
九寸 七寸

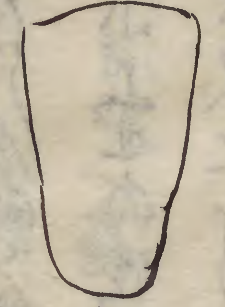
爰爰見し
神代の石袋あり海内稀き
にゆく神代心
他りし
今列石
今の世

雷弁の自然石——世々々々々のあり
 不似好むものいりかきも^花——在る形も
 小々大小有り

雷弁



石弁



色青或ハ黒
或ハ紫

雷弁石弁と称せざるもの粗弁に似たり故
 名は世々々々小有ハ弁に似たり形も小あり
 設^誤り来——おた^正と神代の跡を云々
 雷弁と称——張るゆへ小雷弁の図をか

はとさ——むるもの古き親考堂有津橋の
 古佛ありて裾のりて焼換——有お供ふ
 新田義真の靈ありといつらとなりて江戸
 を江戸をと遊む。時々の過堂とさ
 遊ると右平記——ある——有過堂是と云

橋本村大金山光明寺略圖 中堂印辰二白
 京都智恩院末なる阿弥陀如来八幡文の他ト云



光明寺池

本堂

古墳

池アリ東西凡二石百
南北ハカカリ是古の
川筋ニテ矢口村沼ニツ
ク中ニ堤アルノコ
美興村死ハ此邊ナリト云

十八

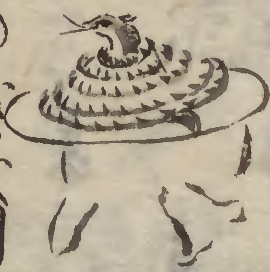
Vertical columns of handwritten Japanese text, likely a travel diary or a collection of notes related to the landscape. The text is written in a cursive style and covers most of the right page.

観音堂



弁天の堂有神神像一とて蛇めく宝珠を
 卷一形之たの島ありて常^常堂の弁天
 右より賀神有其次賀神の形も亦いま
 不見形ありて弘法大師の像をアムに
 板長とてたせし神神ありて
 板ありて

弁天神蛇形之図



世所の名主御在堂とてし者^者の屋敷内とて神田神社
 と稱せり有唯そ家のとありてしと板長と

光明寺の東山の石とて蛇形一筋あり
 くの樹と云傳ふ

馬込村

井村とて梶原屋補と云有井地^三とありて
 島ありて僅なりと云地とて藏石と云板
 小梶原京付とありて梶原氏の人住
 回地ありて京付の屋敷の産ありて素
 一家の武士ありて板長とては
 今の代の初形刻とて瓦七石ありて大
 名ありて板長とて板長とて板長とて

あゝ

むさゝの國のり〜
牧場まが〜
〜古きまに祀るせりけふもむり〜
牧場まが〜馬迎の名残り〜

池上村

長栄山本門寺のまを〜知日蓮宗の寺
〜事略と日蓮上人の墓志〜
上人と遷化〜火葬と〜甲列才徳
と世に〜墓と〜境同慶
諸位と外なるの御傍墓まが〜こよ有り

又加後主行武清正教后を骨の墓ありと〜大なる
石碑を分骨とし〜事ハ位〜清正
教后ハ祀後正徳中〜病死あり〜城のま^北
本明寺と葬り〜清正大徳現と称号〜
社伝子有能石寺院十餘ヶ寺神異あり〜あり
建九列のま徳大位〜〜系傳の人
〜祀後中一の社忠あり分骨ま〜
あり〜僕祀後小社あり〜清正の社〜系傳
〜妻〜弟〜に清正教后ハ日蓮宗
あり〜小徳院と加〜〜ものあり〜

三村と云り——名を慈眼山善後寺の事記
を記し送^送りぬ善寺古き所として古教館公
物小極り——まひ一宿有——寺あり建たの
古書あり——字——なり建^建一^建と云
此地を大井江院善後寺一夜山休の付節寺
小若寺のそ戒評之そ賞存存羽平平村吉平蘇
り下若之

建久二年二月

五次 祖田嘉久
梶原嘉久

頼朝

世と云り——祖田梶原実名同——とそ
且文章も世の——梅小寺あり——是
と云り——古き所として次の信修文音
あり右の——小極り——ゆやを小極り
ゆや——より——坊あり古き——は志物の事
ありの之は善後寺に任あり——古き所として
——建久——あり又云竹村——常村
布袋院陳陳未の括概有り惣の家士の
物持——あり——惣なりと云信——あり
金洞寺の阿弥陀仏と云り金洞寺——と

又云菅原の大塚は香の流胤梶原系時と云ふ
——あり——梶原氏の於て帝系改の子孫
といひくとも國香の後胤といふ事未だ
いづれも張り来しものや大井の氏
梶原の食地あり——系時の墳墓は世守もあり
と谷との相傳ありり——是れも^元梶原の
しるし
玉香の貞盛の父結盛の祖と云ふぬる事あり
蓮沼村
福田山蓮花と云新義志之宗の旧地あり

在京都の地以在京都其郡有治と云——^元お家
——蓮沼村と改名——世守と康をせり
ち——時代詳なり——^元中書土西親善の基の他佛
昔時の七堂伽藍の地あり——池上中門寺あり二五ハ
け下と云——二五ありと云傳^{お傳}——^元新造の地以は
彈正何某といひし土目蓮宗と源く伝——
家^元の地宗あり寺院あり——^元政宗を元
石随僧は寺院焼亡——事あり——世守も^元
のた免し焼——事あり——^元再興の事ありぬ
中^元——^元ぬ^元乃^元方^元彈正といひの人といひも詳なり

小糸家の幕下の士と云々中と傳ふの小田原の
北条や謙翁の小糸家や志れを好言の奥にあり
地名あり奥列よりか〜傳ふ〜蓮沼の
村名の世所の沼〜むり〜蓮のむね多有り
〜とあり〜地名ありと云々津園村といふも
を村へ好言彈正りを室にあり〜とあり〜

女塚村

世所と女塚と稱せ〜と百姓を爲といふ者の
屋〜き〜うら〜古墳は是女塚と云々人の
お傳ふ〜むり〜けり。長者ありを家の

娘を葬り〜塚とも又云々貞婦世所あり〜
害せ〜と〜と里人表れよむむ〜とあり
葬り志〜の墳と築立並り〜とあり
支統詳なり〜木橋〜右平記〜竹沢何某義貞
とま〜のさん〜竹沢り方中〜落〜貞婦を爲
義貞貞婦〜竹沢り方中〜落〜貞婦を爲
竹沢〜ん〜貞婦り人〜後有〜世貞婦人と
益出〜〜竹沢り家人殺せ〜とあり〜
と娘人を葬り〜塚あり〜何ふ〜とあり
中法有墳〜と〜竹沢り女世所の村〜ハカ菜葉

兼を細毎く種くをを咲らる江戸へ出く
賣といえり盛の前は徳祿成

道塚村

舟村く子五塚と云有古人云事雨夜世らるの次は
赤子の愛むと云り伝くくくくくくくくくくくくくくくくく
賞といふもの多く人をさすくくくくくくくくくくくくくくくく
盗えり他方へ連けく賣くくくくくくくくくくくくくくくくく
曲者を赤らりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
塚と云傳ふもの多くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
といふ事くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
と号せる小社有

日月の神名故有んと別當金剛座山大出院と
云詩く立其のくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

新井宿村

聖方後山桃園寺と云福院古き寺と云くくくくくくくくくくくく
立其の中東張ゆのくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
せくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
是よりよりくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
桃を云居土の墳墓ありく傍く碑あり文と弘文院
林子の撰あり寛文年中の詔ありくをくくくくくくくくくくく
章ハ略くくく

お侍のふいふい〜の世に海を渡る〜性来ハ
寺のう〜なる星を通りせ〜古名ハ
荒井岡の侍と称〜苗圃の名不〜定家名
亦有り〜任僧の抱〜^昭院判よあ〜い
侍と〜の定家名の前侍れハ破〜^昭と詰と加よ
り〜のめり事多〜と云〜是ハ里人の
古き古きを持来り〜^昭書よあり〜
甥と〜^昭院判を〜ぬ人〜世〜^昭二奇
学若め〜且〜よ〜^昭け人の云〜と
あり〜あり〜^昭詰と〜

真津風あ〜の侍の波風〜ぬきま〜

啼き鳴るうね

松は津風あ〜のさ〜^昭の深のうら〜

たむきんを〜

世外古〜記せ〜^昭あり〜事あり〜

家人の名世〜^昭人〜あり〜^昭ゆふ

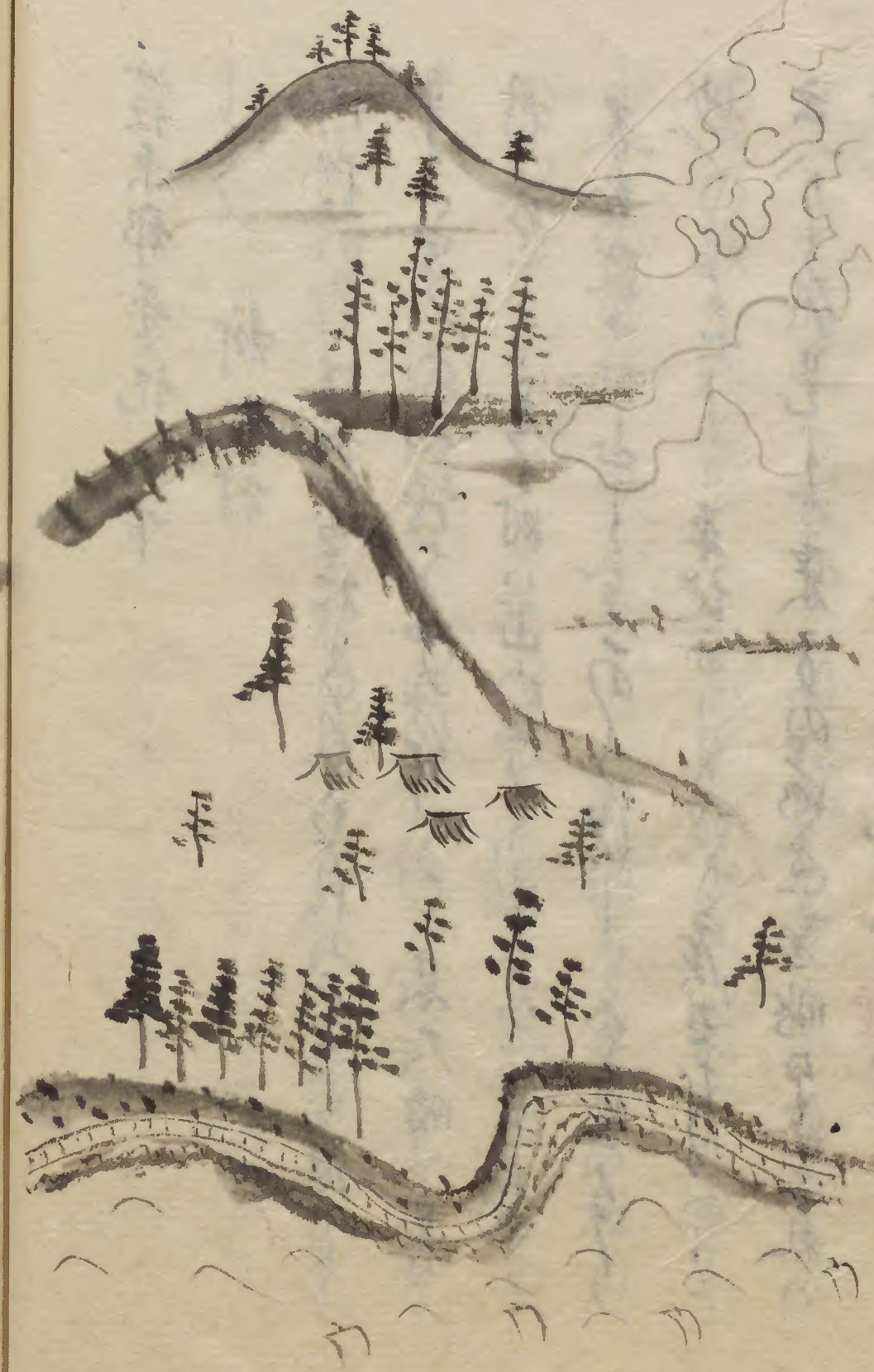
夏小記さ〜^昭〜^昭磯副松と稱〜

松の大樹今〜熊野権現の社を〜

十年斗心前より一枝〜^昭板を〜

より地底より伏〜^昭今白〜

打續松茂限りか——漢古の地ありそも初く
 目か度所紙いすしそつめつく次



廿七

申延村

八幡山法蓮寺世地田地あり八幡太市義家の
守中と稱せり八幡太の社あり大津^葉の入
社堂なりお傳へ源頼信公長元三年
船歌平忠茂返伏の時世中とを陣中返伏
ありか後あり^多度々の事にて終つて歎と元
一^一ありそれより義義家持傳へ有り^江勇烈
羽衣赤九年後三年の戦ひあり^江勇烈
文永年中の江武列在京都の江王在京都馬

何某ハ義家の姉^嫡孫あり世中とを^江勇烈
一^一小八幡太の現^江あり^江勇烈
一^一江新よ親^江情一^一あり先祖親^江徳一^一あり
謙倉石河^江國の八幡宮ハ外宮として尚社ハ内宮
ありと在京都馬の自^江中^江ありとの事
世中の付^江あり^江義^江家^江頼^江信^江の^江後^江り
快在京都馬^江尉^江より^江誠^江中^江河^江國^江利^江一^一の^江後^江快^江有^江り
何事^江も^江御^江字^江なる^江事^江偽^江詳^江あり^江と^江在^江京^江氏^江の^江後^江り
快^江い^江り^江あり^江と^江在^江京^江氏^江の^江後^江り
快^江い^江り^江あり^江と^江在^江京^江氏^江の^江後^江り
快^江い^江り^江あり^江と^江在^江京^江氏^江の^江後^江り

武功^諸びなその威のよまれりと記す一有り
 さもあしとくや解りて大よき一縁^諸
 西ふくは且謙倉と踏ヶ是此八幡宮と外ありて
 世所の八幡宮内宮と外と解りて街より
 こと事之文永年中も今年近凡八百之拾陸年
 ありは旧地とソシへ

下目黒村

右平山龍泉寺の略号



東都へ迎へく人のよき知り承りしとて且板本よま
しりれハ大略を記事跡も除きゆりぬ境内
口子坪也免の除地あり今とを廣し一冊也
をうんハ山のこゝろあり是ハ風土記よ何の是
被是建敷ありとも志記と見しき亦ハ文にあり
奉ありしハ地名と考ふとあり昔の名有
是ありしハ寺の庭より上の堰しハ床^机の
中立場有ハ此中よりありしハ多し^也
寺しハ中緒末屋と記すしハ院主殿も
御下の傍ハ對西しハ^一回んしハ^一いりまし

ふ知と考へぬハ此法之事あり相目白目赤
目黒目三不動あり冊地のハ慧昌しハ^一外の不動
ハ系福の人も稀とあり佛のうしハ^一仕合名塔
ありハ人の才の上よ有もむべあり寺内ハ^一旅難場
と稱しハ^一小なる流有涌出と見し^一ありあり
雅あり名産しハ餅を有又飯あり迎奉あり
自らハ^一粟の石かやの穂あり^一石糧せ^一冊
りり^一の畑を仕出^一あり^一賣たり
町の内ハ^一就江山東恩寺とし^一ハ^一産寺僧寺あり
冊あり^一立寄し^一ハ^一内^門の内し^一室^堂止とせし

棟札を建しり宗法し初くみし之冊
庭よ古人比譽塚と称せり有る名やさし
よつと故もあんと尋軍しに地もたのま
魚情りし向く死せし其の墳成し
是ホハ人のんくよろしりぬ事初めく
後年ぬハ名取と混雜しり旧地と終り
之のなれハ掃捨くもよろしりあしき人
の事とゆふぬ
世村よ松輝山大聖院としり天台宗の多院を
本尊とんぬりの阿弥院と称し洛東永観堂の

佛と一神を方の阿弥院とも云謙翁の江の
考故上人の威均の阿弥院之年應祥あり法を
を大寺大明神と号し日本武尊を崇る社を
し玉ての旧地なりと云むりし勇列節
の性也^聖と云ひ傳し之任傍の旧別小田原の
迎小梅はとしり有世地し君妻権現と号
せる社あり是ハ日本武尊の由りし記橋姫仔豆の
とさ記めく牙成なるあまし瀧死あり死骸冊
迎し流れ来りしと浦人世梅はの地く葬り
し社を建立せし旧地と云

追^ド古俗を云——及きそのなり日が武を
東より中向の事取ましくかりんこの大寺
大明神も故ありや傍より稲荷の小社あり
社といひきき
徳後大権現の社あり能社堂あり別当寺を
鳳林山言幣寺と云福宗あり後列金毘羅大
権現をうつけ——不之

大崎村

仙臺傳の市中屋敷あり前を井邊の里人神り清と稱す
按古の神り浦神り清といひ——むさ——の急

あり——今赤川と云——神り浦と稱す
誤りあり——昔は大崎村の辺入海あり赤川
の地ハ海西なり——今大崎村ハ海あり——
赤川と海濱あり——
このり是ふと銘ふべきよあり

中目黒村

古社新なり——祐天寺と云及念佛の有る澤云宗
の寺院あり是と新地あり——

碑文台村

地名小碑文台村とあり上世碑のあり——

あまのりつとらりつ 田地を求のりつ 母祥あり
新村 昌山次郎 守りつとや 八幡宮の
小社の神祥の何きもむりつ 秘佛あり
りつ 別當寺 神宮ちと
云多院あり 世恒僧のりつ 宮友右衛門
とらりつ 百姓のりつ 秘佛あり 伝
尚社の神主に 重忠家臣 秘佛あり
秘佛の撰記あり 夫古古抄あり 事
平生 世社あり 入立あり 日蓮宗
と天台宗と宗偏のことにより 妙方 打合 擲合

りつ 村中あり 混雜あり 時あり
あり 遺言あり 愛拂あり 事あり 時
終末あり 今 世あり 今 八幡
まの西むりの 鎌倉街あり 今 傳あり
あり 祥あり 世 村内の 四家あり
あり 八幡宮の境内あり 深く埋あり 今 傳あり
あり 神祥あり 自然洞の清伝あり 今 傳あり
あり 宮と云 家名あり 世 宮を代あり 今 傳あり
あり 宮の何某あり 今 初めあり
あり 世社地を命あり 今 傳あり

定く往昔の碑あり

世村一姫光山法苑寺として名宗有由来平
拾九石佛慈光大師の寢基ありて四地として
如河乃としてあり世迎の宗瑞の事まき有る
世も申は日蓮宗となり池となつち
屋一古き山号寺号も打捨て姫光山法
苑寺と稱せしとしてありてその後又名宗に
改しありて山号古号の改名はとて釈迦業
の墓ありて樹村多し世名法苑寺として目と
よりこそしせり板世名のに至り美濃ありとあり

とて大い小松昌一ニ王門の四子あり詠の
大いありと兼後世の寺名跡あり
本家の釈迦末に今いつ書に仁王の助命あり
修後ありとせしむるよし一説は仁王の威
より本家の権にありて家を亡し例多し
世新の釈迦末も神ありありありとて或は
河内院と云仁王の化せしニ王とあり

奥河新田村

世村子吉良氏の家宰平出將と云ひ一人の
岩の跡あり幸應とて目黒不動の別處を

懐況を云事あり阿^河松^坂上人の今^は作^らせし生れ形
く再^来しむし形を記しむしむしと云
あり又河^松上人と生^来あり地^名の化^方
ともしむ右のこく心あ^く生れ^る事^の
自^中ありあ^るせ^らか^列作^らせ^し生^れさ^りと云
たもあ^る今^一月^の大^伽藍^と城^也也^一
傳^へし形^手地^は小^田東^北條^家の^居於^る良^き馬^也
何^某の^形を^平た^馬と云^一人の^住せ^一岩
の^形と^云た^もあ^るん^と云^一城^の形^跡を^り
又^かめ^の大^沼め^く今^は田^本なり^と云^人云

世^の去^り深^くあり^時人の^長も^落入^り
む^り一^の要^害も^も世^のな^るん^と云^一

馬引沢村 上^中下^と云^ナ村^{あり}廣^下入

昔^け所^がた^る沢^を形^の時^のあり^て沢
の^邊通^りあり^一小^馬の^形と^云ん^一諸^の
沢^{の中}入^る也^也此^の漸^くと^云ん^一引
上^一馬^の引^れと^云ん^一死^をと^云ん^一奉^返も^云
と^云ん^一と^云人^のと^云ん^一と^云ん^一
地^名を^馬引^澤と^稱し^一又^形の^形
衆^のと^云ん^一と^云ん^一と^云ん^一と^云ん^一

河一毛の馬を求めしむるは必ずしも子
あし毛の馬を求めしむるは必ずしも子
との七人物語なり

石子堂村

石子堂一宇あり世田村名とすし元年の
田地と云傳ふのめりく付物おもなく被とを
へきこと更にたゞく流れとも堂の辺大樹の林
ありく古木も多きといふめりく田地ありんと云い
たりぬ

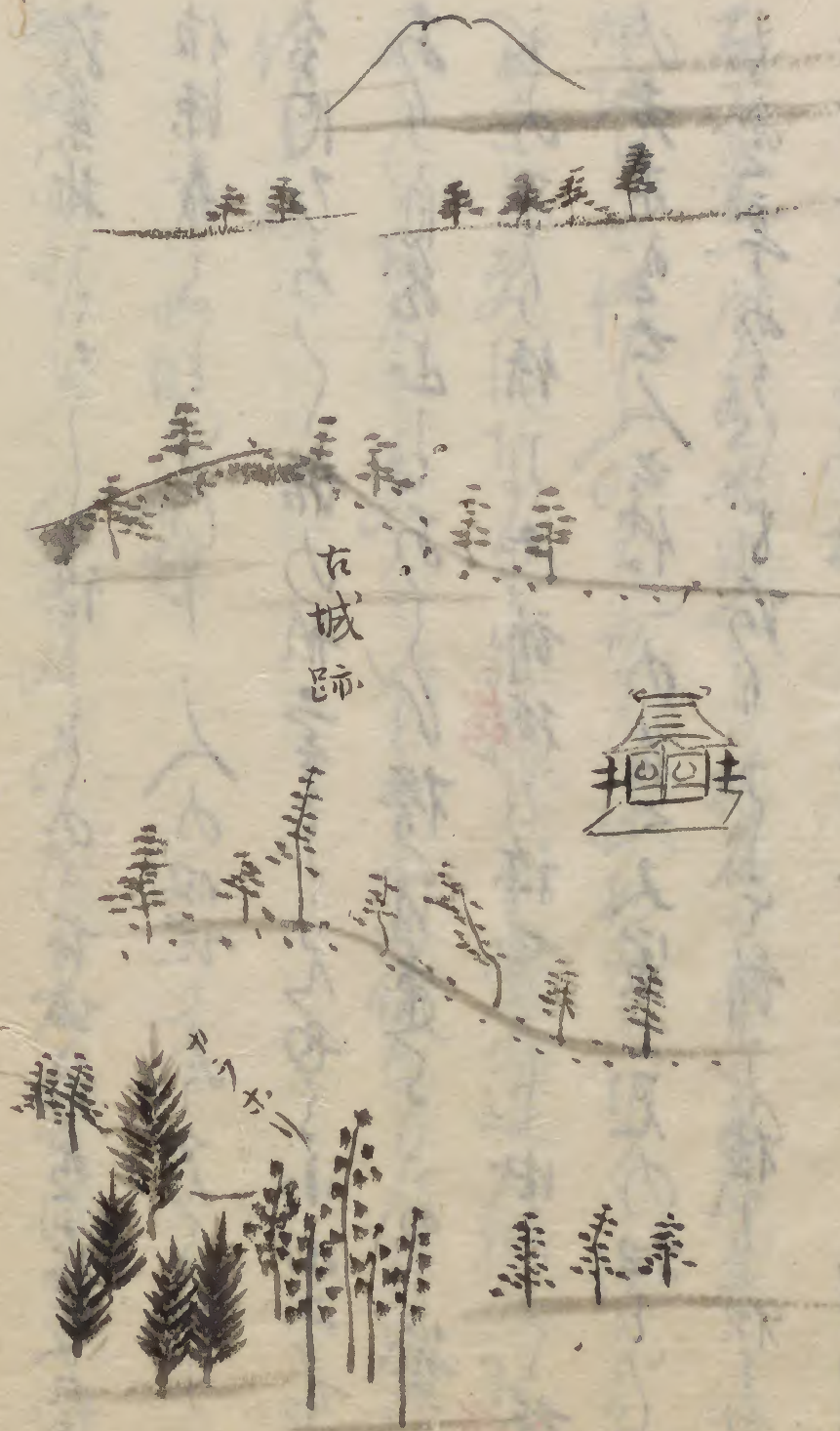
世田谷村

世田ハシの菅刈の庄と云人云源順の

新集抄にありし得るもの古城記に古良集
佐藤義高と云いし人の田地之今云ふ所
分内ひろく塔の形云々といふも小山二
あり自然山とありし標記建つといふ集
このなりけり御新集と称せし中ありし
の老木ありし人云傳ふの谷之又富士の松と
もあり亭ありともありしと新集と松と
を世田より八反土山の標記と云ふ
お新集より山の標記と云ふよりいかに
左右此ありし一入寛と云ふ



三九



古墳跡の傍に大諾山豪徳徳と稱す禪院を宇山
門前和尙と云是より山前に洞雲院殿正光及旭大
居士といひ一人の在りといふのありけり
つきの時代と云ふは中興ハ昌院豪徳徳
天英大居士是ハ井伊侯の祖めり中興緒あり
りや會地校持木料多其の跡あり小今いむり
能く大寺なり本堂庫裏客殿禪堂は外のため
とのいつき搦ひり重徳ありて英大居士とやハ
井伊直孝親臣の一ふりり并奥方の正英也寺
より本堂の大額一武世佛とあり大字むり見事

よゆり一は遠ハを危り橋の亦多り申すも
世等の庭に在橋木の橋あり是とも御所橋也
稱す凡敷北或拾方餘東西十四万斗校ぬり前後
左右一さ一玉一風俗よきさ一こ一榎野事
其ハ世橋の亦木校朽り深き洞窟あり世官一陀
籠り后一お節あり事あり梨也八万斗の大陀と
りりるのこ一少や世陀一官一ありことありハ必と馬
路と云云古人物終りぬ不審の事におりいり
細雨の出影り対面一り世一件一りりりり
古人のいりり遠りり一陀ありハ二日三日のり

にと是北及海之冊橋七八年以糸まゝに校系
大いに惣裁し方之拾万も榮ありに
のひともなしく蛇の穴ありせし一年
裏ししまいに右に枝も多しと枯りし
なりしうんともなしくそ候まじ
並ぬと僧の相送り作りし事之按に蛇の
りりしおむらう中めいりてなとよひ申す
あとの之又就の時とまらうと小蛇と化し
かゝ角も籠り居るとの軍ぬ冊蛇何と
せよ出れとあはれ候ふとて平生の蛇めい

ありし世に青なり事もあるとの之橋は
能くありしに戸より蛇一蛇ありし
小蛇めいりしとたれし

同村

延命山就鳳寺と云福院の山今常就と和為
正之位に多橋佐和康就巨の建立御系下之拾石
有れ康も吾良成めりし源家の歴家之今も孫
の家と申其の山は天永初と稱し大蛇
の軍し其の吾良のしりの墳墓境内に
作りしなり

目村

九各山茶師院後園古是も福院宗ありて由來下
拾遺石吾良義等の祈願所ありて申す
本寺茶師佛弘法大師の御と云、甲山洋を以て云也

同村

八幡宮の社を四地の中緒よりありて御來平拾遺石
御お傳へ八幡を御義家公由建立と云て定り
之故もろんと神之大場大田苑といふ人の家
より立出た年歴由來成るに世傳一風あり
ありて何と云ふも知れぬと云ふも申す

今一と四ハお稲ありていと云いりんとまな
くく僕笑いりて神とも菊といふ人の
根之師の身ありてありてとも真ありて

同村

常盤橋といふお傳へ吾良氏の老女と云ふと
いふいぬ人匿名をうけ謗者の多かりに世傳
切殺さるおふい懐胎ありて切口あり
赤子出たり袍衣を改る小吾良氏の定飯あり
ふ義ありてこと分明ありて人々哀れ
あり世傳人と云ふとありぬ赤子成神と云ふあり

是より川を隔てた盤橋の谷ありと去人ありとあり
 世田守吉の地は吉良氏の時に城下の市街ありと
 那多摩郡のうらめしき中一の更替新しき吉今
 敷多ありと吉良の町ありとに吉良家没落し
 且は吉良の地は吉良城となりとあり自然と變り
 吉良の地は此は吉良の町を築しとあり今あり
 辺郡の僻地といはれりといはれり吉良の内
 吉良氏此家吉良の助今もありと武蔵守を執持し
 一敷もありとあり

大谷山高徳祥寺に十境あり新謂

白石雨玄園 表熱門 黄名喃
とていふ

三陽山 清涼橋 川の橋

楓樹井 松林 柏 庭 庭

古木 樹 照心堂 鐘堂

右と左とあり標する十境の地ありとあり井仔俣の 石

達及 法 達及 法 達及 法 達及 法 達及 法

法卷村

新松山冥相院と云禪寺あり御朱印拾石御院山

庶て和当^け地も吾良氏の建立ありて実相院ハ吾良氏
の法名之といへども^{世代俗}緒祚祥ありて尚村と井伊候
の内知所なりしとも吾良氏回館の地三子原坪ハ
吾良吉良氏の地なりて毎年去人よりありて
費^貢物ありて云々世年にお供ふ小田原小条家没落し
りてより此地も浪士となりておもしろ
退去し誰より年費^貢ホを信受せる人もなり
し由り百姓も志ぬ魚しりて他五ヶ所
と報年ありし事なり對面の時お供ふ
ありて六年も七年も二年貢地ありしと

し事百姓の云傳しりて事之是はさあ
しりて村と注^卷卷村と稱せし事ハ
東照権現様尚書と伝しりて附小条家の^法法
をく政落しりて世地におのりてをせ注
をきりて路系せしりて士多ありて建注卷と名付
しりての云傳しりて或人の曰吾良氏路系の地と
あり

淨堂五家村

むりし世所しりて一切淨を養せしりて堂ありて淨堂五
家村と稱せたりしりて安村名之今ハその淨堂のあり

し亦も軒ふりき荒地となりしつら馬於
場になせると百姓のいなき大く打者りし事
これと世の中此男いとつらん

上水村

出鷲山密前院と云ふ地は世尊の庭ふらん
橋の大村は長凡六七丈圍り二抱之孫殿といふ
世邊ハ村くく香紙佃ふ之素の本そつらあ
くは百姓力をとぎなハ大よ益めもあつら
後ハ信をも減出す上中玉節とと
遠ハく何の村もさふお意くその地ハ

廣をり秋の林雜木のこや
しゆハ古無友木敷の正月宣くは是地あり部の
と云ふと云たもあつら
そ白くの後のさ百と云ふくあもあ入事故り
家もくと目くふは戸く趣ひく地の理をた
働する者ハ敷かこれハあふ張そのは元毎ハ
目を決しとんくゆぬ波くもなま事
廣くとせ地西に蓋して並もお
ま事と云

右と在京都大昭の記なり上方面と遠い名所

荏原郡拾遺

七月廿日葛西東宮田村と限赤紙限よりくはる
りく分り地味海よりくはる荏原郡なる南赤川
宿大井村なる村のうら古きち社ありと告知せり人
ありりくはる漁船を借赤川よりくはる世海上

三里とつり眺望の景を画せんともいり
廿日五時ふりく進急りくはるいききと海く葛西の
海邊葦生茂り利根川より中川の川尻と凡三里
拾里町の町ありりく村割較多ありりく湖の邊あり
源ありりく武之入申干汲ありありかりりくこも
村割形事なるりくきも葦生りりく
後湖の時の葦の穂先のりくんぬ板較ナ取り
卒初安と建りりく新のありりくゆりりくや何のと
ありりく形も卒初安と多りりく建りりく事やと取人
小初りりく是と先年佐列漢乃山鏡取りりく時

利根川筋より死にせし人涙もあはれ流れかゝ
世海西へちよひ船かせし紙衣をを初と
痛あまれを憐れし漢士仲乃り合その死骸と
五葉光甘剛く暮らし毎年七月廿六卒破原
城建うき佛と唱へ伏養やは是ハ英櫛と業業と
いへしものなかりしと相強しなり
津街より喜れを告いし事之申川尻より荒川尻
と浪着川隅田海上凡一里拾五町申川のあり尾筋
川より一里半海より出りし海を幸ふ或人磯村
の沖ありし人細路の沖ありし海を幸ふ或人磯村

の海も浪潮ありし浪深なり兼ておもしろし
浪を幸ふあり大船の廻りせるあり尾筋ハ帳僅
ありし海を幸ふ或人磯村し云よりし
船入なき不也し是水ありし川の中へ破掛
しと不也えし秋を風ある時ハ難混せる船掛
何とあつても川を帯せし舟入の海ハいと
ありし海を幸ふ或人磯村し云よりし
そ外何事にも毎年川渡せる事一冊新の
川尻も幸と誠なる船入理り返りし難儀を
川渡く一日し古丸船の小舟幾艘と定その云

村側ありて送り於田畠の遊もけとて一畝並
お兼る事もありて巧功功なるものなりきま
とまればお入るものなれば二畝の小舟も
日々小梅急なる五通運子時ハさしとてお入も
おく一年のうらも巧功功の足もなるものあり
東京在田村より風順りておけり徳時ハ北川大表
色ハ暫時ハ後海せることなり廿日ハ風なると
二時半ハさしとて北川ハさしとて事
お入の方云ハ辰巳より北風をイササとい
西北より北風をイササといふ北風をイササといふ

北品川宿

おねおねの神社あり御朱印も右神社の祖堂ハお殿
おあり唯一の宮なり神代ハ去元二年祖堂ハ室治元年
の勅傳すおねおねの和同年中の建立と云ふゆきも
院と云ふ事もおけり云傳ふゆき

同所

熊野山々乃乃寺天台宗ありてお寺ハ弘治院ハ東慈光
大師の佛ありて宗山も慈光大師ありと云ふ文を
右寺寺といハ院と云ふ事ハ小あり

大井村

松榮山西光寺一向宗深山親孝上人なる阿彌陀
如来形々の宝物とて〜〜〜〜〜大切〜物傳〜
東照権現様の御尊御有御持〜御〜〜御〜
〜御小あそられ〜〜言ふ御文章と字を〜
大御之殿山中向〜御中〜世示〜御使者也
〜御方官受方御入〜御八百条御一仕〜
御^刻但而上御事〜御〜御〜御〜

六月吉日

家康

孝賀元孝殿

孝小云傳〜元孝と〜人〜武田信玄の親族
あり〜津古志宗信傳あり〜丹守中興の宗基あり
也〜小孝云尚孝〜御宝物秘記〜
物傳あり〜年号の事故〜の〜御傳〜
事も〜〜といひ〜世〜
孝り〜事〜外小蓮上人の名号あり〜
信玄の御御藏と稱せり〜の〜御見さ〜
姥橋蹴鞠さ〜と〜の札を〜老猪^樹あり
放し〜んと御軍〜に上より植〜橋と
り〜の〜大井村ハ橋樹多〜

龜子と云ふなり云傳ふの事之六百年も年ぬ
極ありと云ふ

同村

大井山光福寺一向宗が寺聖徳太子の佛と傳ふ
阿弥陀如来宗山親雪上人と云之境内と云なり
井ありん所自然なり小井と云ふお小言
是の横宿と云くそ官方めくひり源く横く
あり井と云く傳ふあり世道は大井の谷と稱
号せしと世井と云く名ありしと云く此地
ありしと云く一向宗に大徳の軍と云

り海大和為誕生の地めと云くお産ありと云
泉井と云傳ふ事あり

同村

角現山が井と云く台宗が寺茶師や茶意差大師の
佛と云く宗山祥あり世寺の傍小麻湧出神
の神社あり梅生い茂りありと云くそ神あり
清浄の地と云く社旧地と云く古きかきとの銘に
あり清林寺別當ありと云く寺ありと云くお産を別當の
と云くしりん形の形今世あり銘に云く是れと云
自然洞之妻安んりしと云く十千の字ふぬ又寛正六年ハ

もろ〜んとせ〜時ま〜の 柳と云ふ大枝を折ら
り〜小枝を折り〜まれとありりる〜やう〜小枝と
社折り〜ま〜ま〜さ〜さ〜て〜を〜雅な事〜小〜い〜
今〜世の橋ハ中枝をも折ふ〜と谷を地〜う
き〜^受明の徳ま〜〜ま〜者〜と風雅の厚も
初なる〜の弟の末と〜り柳意のふ〜世さ〜の
村を折〜と〜ふ〜〜を〜折れずや〜折れず
返〜とありり〜ま〜事なりま〜

馬込村

前〜記〜直〜前後の古去紙と〜んさる

と迷意ひ且不論整合の〜めも心〜にそれ
再〜冊等小〜り院と小〜う〜一〜んせ〜に古去
い〜短〜と文章み〜〜時代紙と心強人
の筆記せ〜〜の〜と〜ん〜と〜り梳束り布袋鞆
と谷竹〜鞆と院い〜めも古物小〜〜鞆小
ハ茶編〜布袋の杖と心〜長〜姿と前後とせ〜
このめ〜それとま〜れ〜とみ〜〜と〜小〜んめ
墨塗の鞆あり院ハ今の世〜り〜と〜と〜と
院の〜と〜小瓶め〜抱む〜の新紙泥字漆ま〜りの新
の〜と〜落き決をとり〜〜のめ〜り〜と〜院ハ

——謙倉時代の製衣と云ふ——
素襦袢素腰の今——根来細工と云ふ也古——
隙の貝いづれも陣螺貝なり於野公富士の巻物、
小利いよい——貝と云傳——今洞の三首の
阿弥陀と号せ——^中長歌人傳在右のいまは傳初
榮り——海りの自然洞——
形之似ハ今世——傳洞佛と遠ひ——新と云
ろ——せん——傳佛とせ——の故小まき事
十貫目傳もありとの院主のお後なり室基ハ梳系
京時之述本像を安置せり在像め——長凡一尺五寸

立馬帽子をかかり大紋と云ふ衣を着——西新ハ
勇糧也——小——安行傳の形容をよ子の
細工人のささみ——のめ——ま——換——
古き像なり恒牌——善後寺殿前三列を考香山
不浪大居士正治二年正月廿日と記す正治の年号
そい——不^え光仁治を隈り——境内——京時ハ墓
と称——み偏の古墓あり治ハ——以備操
梳系諸人名の所——より——謙倉——たまり——西小
の方——迹落——時強ハ——一族跡りなく付き
——事 東澄小——あり世地——わりあり——

